

平成28年第2回定例会 一般会計予算審査特別委員会（第2日目）  
市民厚生分科会審査記録

- 1 日 時 平成28年6月17日（金） 午前10時23分
- 2 場 所 市役所 第一委員会室
- 3 議 題 議第102号 平成28年度村上市一般会計補正予算（第2号）
- 4 出席委員（11名）

1番	板垣一徳君	2番	板垣千代子君
3番	小林重平君	4番	山田勉君
5番	竹内喜代嗣君	6番	長谷川孝君
7番	小杉和也君	8番	渡辺昌君
9番	尾形修平君	委員長	大滝国吉君
副委員長 鈴木いせ子君			
- 5 欠席委員  
なし
- 6 委員外議員  
小杉武仁君 河村幸雄君 本間善和君  
稲葉久美子君 川村敏晴君 小田信人君
- 7 地方自治法第105条による出席者  
三田敏秋君
- 8 オブザーバーとして出席した者  
なし
- 9 説明のため出席した者

副市長	鈴木源左衛門君
税務課長	建部昌文君
同課収納対策室課長補佐	大滝豊君（室長）
市民課長	尾方貞一君
環境課長	中山明君
同課生活環境室課長補佐	長谷部俊一君（室長）
同課生活環境室副参事	菅原和英君
保健医療課長	菅原順子君
同課国保室課長補佐	信田和子君（室長）
同課健康支援室課長補佐	佐藤るり子君（室長）
同課健康支援室係長	川崎健一君
介護高齢課長	富樫孝平君
同課介護保険室課長補佐	大滝慈光君（室長）

同課高齢福祉係課長補佐	志 田 淳 一 君 (係長)
福 祉 課 長	加 藤 良 成 君
福 祉 課 参 事	松 田 明 君
同課福祉政策室課長補佐	木 村 静 子 君 (室長)
同課子育て支援室課長補佐	平 山 祐 子 君 (室長)
同課子育て支援室係長	三 須 香 代 君
同課子育て支援室係長	伊 藤 良 子 君

#### 10 議会事務局職員

局 長	田 邊 覚
書 記	百 武 美 奈

(午前10時23分)

特別委員長（大滝国吉君）開会を宣する。

○本日の審査は、一般会計予算審査特別委員会に設置した市民厚生分科会の所管事務について審査を行うこととし、審査は常任委員会の審査の例により行い、分科会の会長には市民厚生常任委員長、副分科会長には市民厚生常任副委員長を充て議事運営を行うこととし、議事進行を市民厚生分科会長に願った。

分科会長（尾形修平君）開会を宣する。

○当分科会の審査については、分科会審査日程概要どおりに進むことに異議なく、そのように決定する。

**日程第1** 議第102号 平成28年度村上市一般会計補正予算（第2号）のうち市民厚生常任委員会所管分を議題とし、歳出について予算付託表記載順に担当課長（環境課長 中山明君、保健医療課長 菅原順子君、介護高齢課長 富樫孝平君、福祉課長 加藤良成君）から説明を受け、その後歳出についての質疑に入る。

歳出

第3款 民生費

（説明）

介護高齢課長 それでは、第3款1項1目社会福祉総務費100万円をお願いするものであるが、介護人材確保推進事業費補助金である。内容については、皆様方に介護職員人材確保推進事業費補助金の概要ということで資料のほう配付させていただいているので、そちらをご参照いただきたいと思います。目的であるけれども、全国的に介護職員の需要が増大している一方、介護職員の人材が不足しているという状況であって、村上市

内の介護事業所等においても同様の実態があるということで、市内では職員募集してもなかなか集まらない。慢性的に介護事業所では職員を募集している状況である。それから、新しい介護サービスができれば、今勤めている介護事業所をやめて移ってしまうというようなこともあって、介護事業所ではせっかく育てた職員がやめてしまうと大変な損失になっているというような状況である。このようなことから、市内の介護事業所等の人材の確保を図るとともに、介護事業所等の安定的な経営を支援するため、介護職員初任者研修に係る費用を補助するものである。この介護職員初任者研修については、旧ホームヘルパー2級資格であって、内容的には在宅、施設で働く上で必要になる基本的な知識、技術を習得するものである。対象経費であるけれども、受講料、テキスト代である。それから、制度の概要であるけれども、対象者については個人で受講した場合と事業所の費用によって従業員に受講させた場合、2通りを想定している。それで、個人の場合であるけれども、研修を受講し、研修修了後3カ月以内に市内の介護事業所に就職し、その後6カ月以上勤務している人ということであって、この場合県が10分の10で上限5万円、市は対象経費から県の補助金を控除した額に対して10分の10、上限10万円を限度に助成するというものである。それから、下の事業所について、これは研修を受講させた事業所で、その従業員が県補助金請求時点で6カ月以上継続して勤務していること。この場合、県は3分の2を補助率として上限額が5万円、これに対して市は対象経費から県補助を控除した額に対して10分の10で上限10万円ということである。それから、一番下であるが、研修を受講させた事業所で県の補助対象とならないもの、その場合対象経費の2分の1、5万円を限度に助成するものである。それで、この県の補助の対象にならないというのは、6カ月未満で退職してしまったというような場合を想定してある。今回積算については、10名分を予定している。それから次に、第2目社会福祉施設費412万9,000円であるが、ゆり花会館の和室のエアコン改修工事請負費である。当初予算で和室の冷温水発生機の冷媒ポンプの劣化により交換を予定していたけれども、熱交換機にも経年劣化によって真空状態にならないということがわかったため、大規模改修しても性能が大きく復旧し、長期にわたり性能を維持することは困難というようなことで、各部屋ごとに個別のエアコンを設置することとして、エアコン6台、分電盤設置費用、既設の吸収冷温水器の撤去費用を計上した。以上である。

福祉 課長

3款民生費、2項児童福祉費、4目学童保育費、説明欄1、学童保育経費における指定管理料267万2,000円の増額についてだが、山北やまゆり学童保育所において1対1で対応しなければならない児童が2人入所したため、支援員2人分の人件費を指定管理料に追加するものだ。やまゆり学童保育所の支援員を2名から4名となる。続いて、工事請負費215万4,000円の増額についてだが、二之町児童館のエアコン交換を当初予算で4台を見込んでいたが、1台についても出力の不良により追加する

ものだ。また、平成 28 年度の単価見込みに置きかえて積算したことによる増額分となる。以上だ。

#### 第 4 款 衛生費

##### (説明)

保健医療課長 4 款 1 項 2 目予防費だが、自殺予防対策事業経費だ。自殺予防フォーラムに係る経費を科目更正して自殺予防対策講演会負担金 15 万円とするものだ。昨年市では自殺予防フォーラムを実施しているが、今年度一般社団法人いわふね青年会議所から共同実施の申し入れがあつて、協議の結果共同実施が効果的だという判断をし、実施することになった。いわふね青年会議所が主催となり、市が共催と計画しており、負担すべき金額について負担金として支払うことにしたためだ。以上だ。

環境課長 ページのほうは 11、12P であるが、2 項清掃費、2 目塵芥処理費である。予算額 9 億 2,635 万 1,000 円に 108 万円の追加をお願いするものである。説明欄の荒川郷施設維持管理経費の工事請負費で 108 万円の追加をお願いするものである。荒川郷最終処分場の地下水排水が隣接する圃場の下を通過しているもので、荒川郷最終処分場というのは、先ほどの荒川郷ごみ処理場に隣接している施設になる。その地下水排水が隣接する圃場の下を通過しているもので、昨年度圃場の区画整理を実施することに伴い支障となり、昨年度に仮設の排水路の工事を実施したところである。本年度は、その仮設排水路の一部を U 字溝で整備し、本復旧とすることで地元と調整済みであったが、本年 3 月に地元から要請があり、再協議した結果、本復旧については圃場の区画整理後の畦畔部に今までと同様に原形復旧することとし、本復旧までの期間に仮設排水路の下流部ののり面が崩れないよう U 字溝で整備することで協議、調整を行ったものだ。これにより、本復旧に要する費用として 108 万円の工事請負費の追加をお願いするものだ。以上だ。

#### 歳出

#### 第 3 款 民生費

##### (質疑)

小杉 和也 介護職員の人材確保の部分だけれども、これ県に上乗せしているということなのだが、県が平成 28 年 4 月 1 日から適用なのだけれども、今までの実績というか申し込みみたいなのというのがあるのか、どうか。

介護高齢課長 この制度を創設するに当たって、市内の事業所のほうに確認したところ、今現在 4 名いるというようなことであつた。

小杉 和也 さっき課長の説明で 10 人分を当て込んでいるというふうな説明があつただけだけれども、その辺で十分足りるのかと言えば変だけれども、その辺のところは 10 名というふうに計上した理由を教えてください。

介護高齢課長 この介護職員の研修費用については、かなり金額にばらつきがあるというか、5万円ぐらいから17万円ぐらいまで金額に差があるというようなことで、1つには通信教育的なもの、あるいは高い場合については講師を充実させているとか、あとは都合のいい日にやるとか、あるいは場所の問題、駅に近いところとか、そういったようなことで全国的にも金額に差があるということであって、この地域であると今ニチイさん、新発田であるのだが、そこだと9万円できると。特別料金だそうであるけれども、なので、県の補助が5万円だとすれば市は4万円で済むということになるので、10万円の10人分を予定したけれども、その分人数ふえても対応できるのかなというふうに考えている。

小杉 和也 これは、県からの指導みたいなのもあって市でつけなさいというふうなことなのか、それとも市単独でこれあったほうがいいよねというようなつくり込みなのか、いかがか。

介護高齢課長 これまでも、県のほうには市のほうからこういう補助金をつくっていただきたいという要望も出していた。それで、このたび5月に入って県のほうはこういうことでやるよということで、ちょっとおくれたのだが、どうしてもやれということではなくて、我々のほうではとにかく今介護職員が不足しているという状況で、一番いい方法ということで今回提案させていただいたということである。

副市長 追加してお話しするけれども、先般市長と事業所との会話、懇談会の中でこういう事業をしてほしいねというような要望があったということで、市長のほうからこういう制度も必要でないかというようなことの提案があったので、それも事業所からのいろいろ要望もあったということをし添えておく。

長谷川 孝 学童保育経費についてちょっとお聞きする。発育障害の学童が山北やまゆり学童保育所に2人入ったので、2名から4名にしたということなのだが、この発育障害の学童というのは、学童保育所で何人ぐらいいるか、全体で。

子育て支援室係長 6月1日現在の数字で申し上げると、一応何かしら加配が必要だということで把握している人数ということで、15名ということで把握している。

長谷川 孝 それで、大体1人いれば1名ぐらいの方がつくという形なのか。

子育て支援室係長 ただいまのご質問だが、必ずしも1対1というわけにはなかなか、人員配置の問題もあって、基準にプラス1名ないしは2名ということで、その障害があると思われる子につきっきりというわけにはいかないの、最終的には全体で見ているという形にはなるのだが、一応人数的には1名ないし2名の加配をつけている。

長谷川 孝 この経費というのは、全て一般財源から賄うという形になると、こういうきちんと見守ってくれるというのは大事な施策の一つなのだけれども、結局ふえればふえるほど一般財源を使うということになるよね。何か別な方法というの全くないのか、国県とかの支援してくれるとか、そういうのは全くない。一般財源を全て使わなければだめ。

福祉 課長 学童保育所については、月 5,000 円というようなことで皆様から使用料をいただいているので、特別県、国からの補助については、ちょっと担当から説明させる。

子育て支援室係長 一応学童保育所経費の中には、子ども・子育て支援交付金ということで国、県のお金が盛り込まれている。

長谷川 孝 盛り込まれていると言ったよね。比率的にはどうなの。

子育て支援室係長 国、県とも3分の1ずつだ。

山田 勉 社会福祉士のところで、ゆり花会館エアコン6台と言っていたけれども、結構広いから6台で足りるのか、大きさ。どのぐらいの大きさ使っているのか。

介護高齢課長 6室、部屋が6つあるのだ。それで、容量的には12畳であるので、エアコンは暖房と違ってちょっと大き目でないと冷えないということで、そこを考慮してちょっと大き目に設定して、それで予算計上させていただいている。

竹内喜代嗣 介護職員の人材確保の推進事業補助金ということなのだが、研修なのだよ。この事業所の皆さんが要請に行って実現した制度ということなのだけれども、私もそのニチイとか日経学園とか何かあるかと思うのだが、その実態はどんなふうになっていて、この補助金で使われていて、もうちょっとお聞きしたいのだけれども、どうか。

介護高齢課長 この初任者研修については、大体130時間の時間を必要とするそうであるし、それから・・・

(「130時間」と呼ぶ者あり)

竹内喜代嗣 イメージがよくわからないものだから、その勤務が終わったら新発田に行くとか、具体的にどんなふうに皆さん研修されるのかなと思って。わからなければわからないでもいい。

介護高齢課長 全てが全てそういうスタイルではないのかなというふうには思うけれども、大半は勤めていればそのまま仕事終わってから、別な仕事をかえるということであればそういうふうな仕事終わってから行くということもあるだろうし、学生さんであればこれから、学生さんについても授業終わってから行くとか、そういったことも考えられる。

(何事か呼ぶ者あり)

竹内喜代嗣 学生というのは、リハビリ学校の子供のことか。高校生とかなのか。

介護高齢課長 個人で負担する場合であるので、どなたでも結構であるので。

小林 重平 この人材確保のための事業ということ大変いいことなのだけれども、実態というのは介護士はもうやめていく方が多いと、現状は。完全に不足していると。この原因は何かと言えば、早い話が報酬の安さ、仕事の割合に報酬が安いというのが一つの大きな原因だというのは課長が一番よく知っていると思うのだけれども、それは市でどうこうできる問題ではないのだ、これ。3年に1遍介護の見直し、改定があるよね。ことしは、平均すれば2.7%報酬が国から下げられているわけだ。それで、事業所が大変運営に困っているわけだ。人材費を上げろ。そして、介護報酬は下げるよ

というようなことで、非常にそのものが大変苦勞している。その中で、今言う介護の方がやめていく。よそへ行くのではないそうだ。今はもう完全にやめるのだそうだ。だから、それを何とかこういうふうなことでやること大変いいのだけれども、追いつかないと思うのだ、これやったって。だから、これはやっぱりでは市でその分出してやれるのかということになるかと思うのだ、県で市で。だけれども、副市長これどうなのか。市でその介護に携わる人に対してそれなりのやっぱり補助金を出してやる、確保をするためには私それしかないと思うのだ。あとは、国のほうで考えていただくことしか、2通りしかないと思うのだ。その辺副市長としてはどういうふうにお考えか。

副市長 今の介護の職員の確保ということであるけれども、基本的には国がそういう形で介護の人員費を上げるなり、やっぱりそういうものやっつけていかなないとなかなか追いつかないのかなと思っている。市でその分上げるということになると、非常に幾らかかるかというのはかなり、どこまででは補助するかというのは、やはり個人事業者に対してのそういう支援であるので、その辺の問題もあるので、うちらとすれば人材を何とか底上げをして選べるような、今は本当に少ない中で奪い合いをしているような状況であるので、パイをいっぱいつくってその中で定着していければなど思っている。

小林 重平 聞くとところによれば新発田市、胎内市から向こうのほうは完全にもういないそうだ、介護をやる人が、やめていくことばかりで。だから、今副市長の答弁あったように、基本的にはやはり国が考えてもらわなければならないのだけれども、今国のやり方というのは、この介護事業に対してははっきり言って生かさず、殺さずなのだ。ちょっともうければ下げるのだ。ちょっと苦しいなと思えば、ちょっと上げてやるのだ。だから、これ委員長、副市長、議会としてやっぱりこれは国に対して声を大にして要望していかないと、なかなか認めてもらえないと思うのだ。だから、この辺は答弁はなかなかできないだろうけれども、その辺我々議会としてもやらねばないのだろうし、行政側としても、やはりそういう声を大にして国のほうに働きかけると、これをしないと、これはもう行き詰まっているわけだから、ぜひそういうふうに我々議会としても対応しなければならぬし、行政側の理事者側としても副市長どうか、その辺声を大にして国に働きかけるということをやっていただけるか。

副市長 そんなことで、本当に国の制度上のいろいろ問題もあるので、市としてもそういう声を出して、またいろんな場で要望をしていきたいと考えている。

小林 重平 それから、福祉課長か、この前言ったけれども、1カ所だけ、荒川の金屋保育園、職員の、見てきた、視察。どうか。どう思った。

福祉 課長 主に施設の関係を見てきたのだけれども、外側か、見る限りではひびが入っていたりとか、そういったのもあったし、いろいろとその場、その周りのプールとかも行って見てきたし、結構工夫しているのかなと。

小林 重平 職員の控室、職員室が狭いわけだろう。狭く思わなかったか。

福祉 課長 その辺も見てきた。

小林 重平 どう思った。

福祉 課長 それで、さまざまほかのところの保育園と比べると、狭いというような感じもするし、そこよりも、金屋保育園よりもまた狭いということも中には保育園もある。そういった中で、皆さん工夫をしながらやっているのが現状だ。

小林 重平 確かにほかのところにはもっと狭いところがあると私も聞いている。しかしながら、金屋保育園もそうだけれども、1つの机を2人か3人で使っているわけだ。引き出しを俺、小林、何々、こういう状態なわけだ。だから、保育士さんだってやっぱり足伸ばして休みたいと思うのだ。だから、工夫してやっているというのは、それは当然工夫しなければそこでやれないので、やっているのだろうけれども、やっぱりこれも副市長になるか。職員に対しても、そういう自分たちの部屋とか、そういったものを経費はかかるけれども、ああいう狭いところに押し込められていたりすると、やっぱりストレスもたまると思うのだ。だから、その辺やっぱりもうちょっと余裕のあるスペースをつくってやるべきだと思うのだけれども、副市長どう思うか。

副市長 おっしゃるとおりである。現状をしっかりと把握をしながら、また保育士の意見を拝聴しながら改善に努めていきたいと考えている。

小林 重平 今言ったように、とにかくそういうことなので、木造であれば増築するのも簡単なのだけれども、鉄筋コンクリートということではなかなか増築するにも大変なのだけれども、ただあのままではやっぱり私は困ると思うのだ。だから、旧村上の3つの保育園もそういうことらしいし、建てかえもあるわけだろうけれども、ぜひその辺もうちょっと金かかる、金かかるではなくて、そういうところにはやっぱり思い切って予算をつけていただきたい。ことしは無理なのであれば、補正でやることもできるけれども、福祉課長いいか、来年の予算折衝、財政課長等に対して大きく言って説明していただいて、やっぱりその辺の予算獲得をしていただきたいのだが、その覚悟はあるか。

福祉 課長 現在保育園等の施設整備の計画の中でも、そういった検討がされているので、それらも絡めていつ整備するかというのもあるので、その辺検討しながら、今副市長が言ったように保育士さんのその働く場の改善にも努めていきたいと思うので、よろしくお願ひしたいと思う。

長谷川 孝 今小林委員言ったのは、ちょっとここの中にはっきり言えないわけだ。それで、いや、ないのも言えるのだったら、俺聞きたいこといっぱいあるのだ。それで、課長にも頼んであることもあるのだけれども、ちょっとこれやってしまうと広げ過ぎるからやらないだけの話で、やっぱりここに書いてある部分だけの質疑しかできないのだと私は思うのだ。だから、別な機会にやってもらいたいということと、それから去年この委員会で市長と懇談会やったのだ、実は。それで、そのときにこの介護



職員の人材確保ということを非常にお互いに議論したあれがあるのだ。その中では、やはりこの地域の特殊性から考えて、例えば雪が降ったときにそのホームヘルパーさんが非常に雪かきまでしなければだめな、人件費は出ないのだと。それから、もう車でここからここまで20分かかるのを20分ぎりぎりに行ったら交通事故に遭ったとか、いろいろあるのだ。だから、その地域性も考えた中でこういうのも確かに大事なただけれども、新しく介護職につくというのも、研修に対しての補助というのも大事な仕事なのただけれども、ただけれども、地域的に本人がなっているときに、例えば時給1,100円で高いねといっても、実際その中身を見てもう600円ぐらいの仕事になってしまうわけ、合わせていると。ということは何かと言ったら、夜遅くまで全部報告書つくったりする時間というのは入っていないわけだ。だから、そういうのを含めて市長にも何とか村上市でもちょっと考えていただけないかという部分も確かに話ししたのだ。ただけれども、そのときに介護事業者と話し合いを近々するから、そのときにいろいろな話をしてみると言ったのただけれども、その辺の話は全く今回予算に反映されていないということを考えると、やっぱり国が言うてくるのを全部県、市がそのまま受け入れるのではないで、村上市のその介護職員が少なくなっているという現状がこの村上市の特異性もあるのでないかという部分を十分調べていただきたいと。その中で、村上市がやらなければだめな部分もあるのではないかと、これをちょっと考えていただきたいというふうに思うのだが、副市長どうか。

副市長 議会との話も承ったし、先般市長が事業者との話の中で、優先するのはやっぱり人材確保だというようなことで、それらを早くしていきたいということで今回こういう形で出させていただいた。前段いろんな話も聞いているので、どういう形でそれを形にするか、今後事業者またそういう市との予算の絡みもあるので、その辺しっかりと検討させていただきたいと思う。

尾形分科会長 今ほど長谷川委員から指摘あったように、審査項目に関しては項目に上がっている、今回の補正予算に上がっている項目だけにさせていただきたいと思うので、特に関連のある部分であれば別だけれども、それ以外は別の機会にということをお願いしたいと思う。

竹内喜代嗣 ゆり花会館の学童保育の支援員増員の件でお伺いをする。発達障害の問題なのだけれども、発達障害はどうやらかく子供が小さいときに発見をして、いろいろ援助してやれば性格がユニークな人みたいに成長できる可能性もあるというふうに聞いているのだ。それで、保育園、それから学童保育、学校というふうにこの発達障害児に対する支援の対象は、これどういうその連携があるのかお伺いしたいのだけれども、これは副市長がいいのか。

尾形分科会長 いいか、竹内委員、確認するけれども、今の質問はやまゆり荘の話がされているのか。今ゆり花荘と・・・

竹内喜代嗣 間違った。やまゆりだ、ごめんなさい、訂正する。やまゆり荘には子供いない。訂正する。

尾形分科会長 答弁者、副市長。

(「福祉課」と呼ぶ者あり)

竹内喜代嗣 では、もう一回言う。発達障害児に対するその対応、対策というのは保育園、学校、それぞれ連携していく必要あるのだけれども、現在のその研究によれば子供が小さいときに発見して対応すれば軽減されて成長していけるということがあるのだが、どういうふうに連携されているのかと。なければないで結構だ。何とか考えていただきたいということだ。以上だ。

保健医療課長 乳幼児健診等でチェックされるその発達障害傾向があるようなお子さんに関しては保育園、学校連携してかかわり、みんなで情報共有しながらかかわっているというのが現状だ。保健師のほうでは、療育相談とかことばとこころの相談室とか、そういう専門機関につなげて養育のやり方について指導していただいたりやっている。

[委員外議員]

本間 善和 ゆり花会館のこの工事の改修についてちょっとお伺いしたいのだけれども、当初予算だと改修費、工事費として107万7,000円上がって、設計委託料ということで44万上がっているわけ。多分これの中身が違ってきたので、今の補正で411万2,000・・・400万からの金を増額したいという意図だと思うのだけれども、これに伴う設計委託料の増額というのはないのか。

介護高齢課長 ちょっと間に合わなかったということもあって、予備費で設計のほう対応させていただいた。

本間 善和 予備費で。

介護高齢課長 はい。

#### 第4款 衛生費

(質 疑)

板垣 一徳 今日日本全体でも自殺者が減っているというふうにお聞きしているし、新潟県、村上市の中で去年の件数わかったら教えてくれるか。

保健医療課長 去年は14名の方だった。

板垣 一徳 県は。

保健医療課長 全体ではちょっと資料が・・・

板垣 一徳 わからねばいいけれども、全国はわかるのだろう。

保健医療課長 全国は2万5,000人ぐらいだ。

板垣 一徳 そんなに減ったか。3万人超えていた・・・

保健医療課長 3万人を減ったということで、2万5,000人ぐらいだと思う。前後だと思う。

板垣 一徳 さっきの説明の中で 15 万、このいわふね青年会議所といわゆる協力で、自殺の予防の何をやるのか。例えばチラシを配るとか、それから講演をすとか、どういうようなやり方をやるのか。

保健医療課長 現在の案では、講演会ということでゴルゴ松本さんと呼んで講演を行い、あと村上市の現状報告ということで市のほうで皆さんに情報をお伝えする。あと、啓発用品を配ったり、あと啓発ブースということでいろんなブースを設けて周知を広めたいというふうに考えている。

尾形分科会長 板垣委員、よろしいか。

板垣 一徳 はい。

山田 勉 自殺はいろんな、14 名か自殺されたということで、地元のほう。そうすると、内容的とかそういうのはわかるのか。お金に困って自殺したんだか、その家庭の事情なんだか、何か分けられるのか。

保健医療課長 原因が 1 つではない方が多いわけけれども、やはり委員がおっしゃるように経済的な面とか、あと健康問題ということが多く占めていると思う。

竹内喜代嗣 経済的な要因が多いということなのだが、それ税金の督促を受けていて自殺した人は、余りはっきり言い過ぎて悪いけれども、ご存じだと思うので、願います。

税務 課長 督促を受けて自殺した方というのはちょっと把握はしていない。

竹内喜代嗣 できるよね、でも。死んで亡くなってしまってたらさ。

税務 課長 申しわけないけれども、ちょっと把握していない。

竹内喜代嗣 最終処分場の排水路のことでお伺いをする。従前の田んぼの排水路のほうにつなぐということはわかったのだが、その田んぼから直接荒川に流れ込んでいると思うのだが、これはいかがか。

環境 課長 今申し上げた排水路については、鉾江沢川のほうに最終的には排水になるものである。

〔委員外議員〕

（「なし」と呼ぶ者あり）

尾形分科会長 ただいまご審査いただいた事件についての討論は、特別委員会最終日で行うことになるので、これから当分科会の賛否態度の取りまとめを行う前に、賛否について発言があったら願います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

尾形分科会長 これで賛否態度についての発言を終わる。

以上で質疑を終結し、賛否態度の発言なく、起立による賛否態度の取りまとめを行った結果、議第 102 号のうち市民厚生分科会所管分は、起立全員にて原案のとおり可決すべきものと態度を決定した。

○以上で当分科会に付託された案件の審査を終了し、本分科会の報告を分科会長に一任することを決め閉会する。

分科会長（尾形修平君）閉会を宣する。

（午前11時09分）